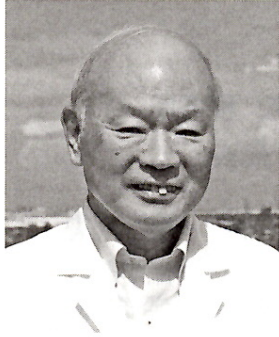


がん哲学外来市民学会 第4回大会

大会長あいさつ



がん哲学外来市民学会 第4回大会

会長 岩田 章
(金沢赤十字病院 院長)

平成27年春、北陸地方の住民の長年の念願だった北陸新幹線が長野から金沢までつながり東京金沢間の所要時間が約2時間30分となりました。多くの観光地やホテルなど賑わっているようで大きな経済効果も期待されています。そんな金沢で当院が当番となって第4回がん哲学外来市民学会を開催する事になり非常に光栄に思っています。

がんに関する医学、医療の進歩は近年非常にめざましいものがあり、診断や手術療法はもちろんの事、化学療法や分子標的治療、重粒子線治療、免疫療法、緩和ケア、心理学的アプローチなど幅広い方面にわたって次々と新しい方策やアイデアが生まれています。がん診療に携わるスタッフも医師、看護師のみではなく多職種がまさしくチームで患者さんのために努力する時代になりました。

一方、がんを経験する日本人はますます増加しており、男性では半分くらいの方ががんに罹患する時代です。がんと診断されると患者さんも家族も悲嘆にくれ、苦しい闘病生活を送り、その後も不安を抱えることとなります。ただ単に医学的治療の進歩ばかりでなく、市民や患者さんに正しい情報を提供し、患者さんや家族の思いに耳を傾け寄り添う事がますます大切な時代になっています。当院は大きな規模の病院ではありませんが、がん患者会「クロスピンク」があり、がん患者サロン「オアシス」を設置しています。そこでピアサポーターによる個別相談やミニレクチャー、カフェやお花の会等が開催されウクレレ演奏なども行っています。また、外来化学療法に関わる認定看護師や認定薬剤師が電話で患者さんと話し合い相談にのる「オアシスコール」という活動や、病棟緩和ケアラウンドなども行っています。今回のがん哲学外来市民学会はがん患者さんに向き合うための基本に立ち返り「傾聴」をテーマに開催したいと考えています。多くの方々に参加していただき、素晴らしい講演や情報交換、熱い議論など有意義な学会になる事を期待しています。

これを機会に、新幹線効果で注目されている金沢で、美味しい食べ物と自然豊かな景色、加賀百万石の伝統をお楽しみいただきたいと存じます。